

# 平成19年度第3回 北方圏講座・米国セミナー

## ～ 開催のご案内 ～

### 「経済交流の視点から見た北海道とマサチューセッツ州」

北海道の経済活性化には、海外との経済交流が有効であることは言うまでもありませんが、北海道とアメリカ・マサチューセッツ州との間では、ＩＴ、バイオ、食品、農水産、観光など共通する関心産業分野もあり、企業誘致、産学連携、技術交流や観光ビジネスなどの面で積極的な交流が期待されています。

両地域間の経済ビジネス交流を促進するためには今後どうしたらよいのか、今回の北方圏講座は、松坂投手の活躍も含め、マサチューセッツ州の最新事情に詳しい講師よりお話をさせていただきます。

記

日 時： 平成 19 年 8 月 28 日（火） 16：00 ～ 17：30

会 場： （社）北方圏センター「会議室」

〔札幌市中央区北 3 条西 7 丁目道庁別館 12 階〕

講 師： 大久保 徹夫 氏 ≪日本貿易振興機構（ジェトロ）海外調査部次長≫  
（前在ボストン日本国総領事館経済担当領事、元ジェトロ北海道貿易情報センター所長）

定 員： 60 名程度 ※ 定員になり次第締切ります

参加料： 無料

主 催： （社）北方圏センター、北海道・マサチューセッツ州協会、  
ジェトロ北海道貿易情報センター

後 援： 北海道、札幌市、在札幌米国総領事館、北海道日米協会、  
（財）札幌国際プラザ、（社）北太平洋地域研究センター

特別後援： 北海道新聞社

参加ご希望の方は、お名前、ご所属、連絡先等をお知らせのうえ、下記まで E-mail、FAX 等でお申込みください。

#### 【お申込・お問合せ先】

≪（社）北方圏センター 調査研究出版部≫

TEL：011-221-7840

FAX：011-221-7845

E-mail：[odajima@nrc.or.jp](mailto:odajima@nrc.or.jp)

≪北海道・マサチューセッツ協会≫

TEL：011-231-3392

FAX：011-231-3666

## 講師紹介： 大久保 徹夫 氏 略歴

1951 年	東京生まれ(56 歳)。
1974 年	東京教育大学（現筑波大学）文学部社会学専攻卒業後、日本貿易振興会（ジェトロ）に入会。
1983 年	ジェトロ・サンフランシスコ・センターに赴任（広報担当）。
1995 年	2 度目の米国駐在となるシカゴへ、同センター次長として赴任。イリノイ、ミシガン、インディアナなど中西部 11 州における日米ビジネス交流促進に努めた。
1998 年	ジェトロ北海道貿易情報センター所長。北海道経済活性化のために貿易、投資など国際ビジネス分野での事業や調査、広報活動などに取り組んだ。
2003 年	外務省に出向し、在ボストン日本国総領事館経済担当領事として、3 度目の米国勤務（2006 年 10 月まで）。
2006 年	独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）経済分析部次長に就任。
2007 年	海外調査部次長として海外向けの経済情報発信業務を主に担当。

## 北海道とマサチューセッツ州の交流概要

1968 年	北海道開基 100 年を祝し、130 名の青年団がマサチューセッツ州を訪問。
1985 年	マサチューセッツ州知事夫人（当時）の北海道訪問時に先方より姉妹提携の申し出があり、2 年後、同州に「マサチューセッツ・北海道姉妹提携委員会」が発足。
1987 年	マ州からの招待を受け、北海道知事が同州を訪問。州知事と姉妹提携に関する覚書を交わし、翌年、「北海道・マサチューセッツ州交流委員会」が設立。
1988 年	「友好の翼」により約 220 名の道民がマ州を訪問。両地域間の交流が拡大した。
1990 年	札幌市にて姉妹都市提携議定書への調印。
2000 年	姉妹提携 10 周年に際し、姉妹交流促進宣言に調印。
2005 年	姉妹提携 15 周年に際し、交流団がマ州を訪問。今後の交流について確認。

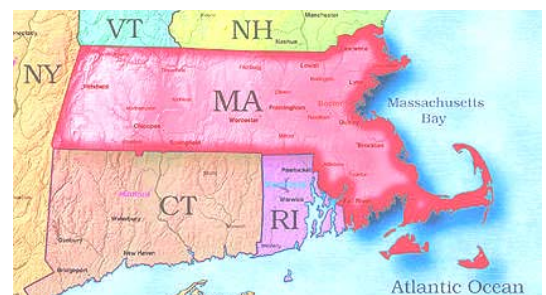
## マサチューセッツ州概要

位置： 北緯 42～43 度、西経 70～73 度

人口： 6,417 千人（2004 年現在）

州都： ボストン（Boston、589 千人）

「1620 年、メイフラワー号がボストン東南のケープ・コッド湾に上陸し、1630 年に植民地としてボストンを築いた。”Cradle of Liberty”（自由の発祥地）として有名。」



産業： 製造業 ～ 全米でも有数のハイテク企業の集積地。

建設業 ～ Big Dig と称される大規模公共事業を展開。

農業 ～ クランベリー生産量は、全米第 2 位（2004 年）。